

日本の知恵、  
プラスチックの知恵



# 折箱

線路とともに、味を運んだ

「汽笛一声、新橋をく」と歌われた汽車が走ったのは、明治5年に新橋と横浜間に開通した日本最初の鉄道でした。その祝賀会で折箱入りの折詰弁当が配られたそうです。文明開化の汽笛の音を聞きながら、折詰の蓋についた飯粒を割箸でつまむ人々の姿が目につかびます。この折箱の材料は、スギやアカマツなどの針葉樹を薄く削った経木といわれるもの。その軽さによる利便性だけでなく、食品の余分な水分を吸収し、針葉樹に含まれる精油の殺菌効果で腐敗を防ぐという優れた素材でした。その後、線路は西の兵庫県まで延びて、明治22年には開業したばかりの姫路駅で代表的な駅弁「幕の内弁当」が二段重ねの折箱で売りに出され、旅の楽しみが広がったのでした。

この折箱のように、通気性を保ちながら鮮度を長く保つ機能を持った素材が、住友ベークライトの青果物鮮度保持フィルムP-プラス<sup>®</sup>です。これまでの食品の生産管理や保存期間、流通までを変える青果物鮮度保持フィルムです。



## P-プラス<sup>®</sup>

青果物鮮度保持フィルム

ミクロの穴加工が施され、鮮度保持の機能がついた包装フィルム。野菜や果物の呼吸に合わせて最適な酸素透過を設定して、品質保持期間を従来の倍以上に延ばすことを可能に。生産、流通、消費の枠を拡大し、環境にも優しいフィルムシートです。

プラスチックのパイオニア

住友ベークライト株式会社

P-プラス開発部

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天王洲パークサイドビル  
TEL:03-5462-4220 FAX:03-5462-4898 <http://www.sumibe.co.jp>